

東京大学

## 樹芸研究所下賀茂寮宿泊施設の開設

東京大学樹芸研究所（静岡県南伊豆町）は、熱帯・亜熱帯産の特用樹木の研究施設として、1943年に設立されました【写真上段左：中央の赤い屋根の建物が事務所】。2009年に改築した温室の管理は【写真上段右】1948年に掘り当てた温泉を熱源としており、総面積247haの研究林とあわせて、様々な特用樹木の育成とそれらを教材とする教育プログラム等を提供しています。

樹芸研究所は、東京からの日帰り利用が困難な立地にあることから、教育・研究目的の利用者は、隣接する東京大学の保健体育寮である「下賀茂寮」（1967年設置）に宿泊していました。運動会を中心に50年以上にわたって多くの東大生に親しまれてきた下賀茂寮ですが、管理職員の退職を機に2年間の検討を経て、2020年3月に廃寮にすることが決定いたしました。

樹芸研究所にとって下賀茂寮は重要な宿泊施設でしたので、寮の建物は2020年4月より農学生命科学研究科に移管され、附属演習林樹芸研究所の宿泊施設「下賀茂寮宿泊施設」として生まれ変わることとなりました【写真下段左：外観】【写真下段右：内観】。

今後は樹芸研究所で実施する農学部の実習や教養学部 of 全学体験ゼミナールなどの教育活動による利用を中心に、運動部学生による夏季特別開寮等での利用や、樹芸研を利用する研究、そして2018年10月に締結した南伊豆町と農学生命科学研究科との連携協定に基づいた東大と地域との交流事業に活用されます。この協定に基づき、南伊豆町のふるさと納税制度を利用して、樹芸研究所の教育研究活動をご支援いただくことが可能となっています。

